

四小だより

令和4年11月22日 No12号



いちょう

山形市立第四小学校

校長 村上 ゆかり

<児童数 189名>

〒990-0055 山形市相生町4番37号 TEL 623-6019 FAX 633-9321

いちょう音楽会の開催に

心より感謝申し上げます

先週行われた「いちょう音楽会」には、ご来賓の皆様はじめ、ご家族の皆様よりお越しいただき、昨年に引き続いて「やまぎん県民ホール」にて開催できましたことに、心より感謝申し上げます。コロナが未だ収まらず、様々な課題に直面しながらの開催となりましたが、全校生一人一人が自分らしく輝き、心をつにした歌声と管弦楽部の音楽を創ることができたと感じております。昨年の反省や様々なご意見をもとに創り上げたステージは、111年の四小の伝統を受け継ぎ、さらに新たに築上げるものになりました。第2部のはじまり、5分ほど静寂の時間がありました。1年生をはじめとする子どもたちはもちろん、会場にいらした皆様と創ったあの空間こそ、コミュニティスクールの成果であり、いちょう音楽会にしかできない意義であると実感したところです。開催にあたり、関係機関の皆様からのご支援に加え、奨学会の皆様より、運営面においてもたくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



東北道徳研究大会において 研究授業発表 ～3年生～

今月11日に、第34回 東北地区道徳研究大会がビッグウイングにて開催され、本校3年生が鈴川小学校とともに、公開授業を行いました。コロナ禍にあって、なかなか外部の方に参観していただく機会のない中、感染対策を講じた広い会議室で、たくさんの先生方に囲まれての提案授業となりました。当日ご講演いただいた、上越教育大学の赤坂真二氏の演題は「道徳授業づくりは 学級づくりそのものである」でしたが、担任の逸見教諭とともに、ひまわり学年らしく、活発に友達と意見を交流し、それぞれの学びを深める姿を通して、研究会への提案につなげることができました。

* 11月の校長講話より



みなさん おはようございます。

11月に入って、季節が秋から冬に移りつつあるのを感じます。私たちは、どうやってこの季節の移り変わりを感じているのでしょうか？

- ・まわりの山々が赤く色づいたり、高い山には雪が見えたりした … 目 「視覚」
- ・うどんや焼き芋などのにおいをかいだ … 鼻 「嗅覚」
- ・虫の音が聞かれなくなり、北風の音を聞いた … 耳 「聴覚」
- ・甘いフランスや熱々のおでんを食べた … 舌 「味覚」
- ・池の水を触ったら とても冷たかった … 皮膚 「触覚」



動物や私たち人間は、外の世界を感知するために、いろいろな体のはたらき「感覚」を使っています。ここにあげた5種類は、古代ギリシャの時代から代表的な分け方として使われてきて、「五感」と呼ばれています。今では「感覚」は細かく分けると、20以上あるともいわれていますが、この「五感」は代表的な分け方です。五感で感じた情報は、すべて体のある場所に集められて、処理されます。さて、それはどこでしょう？

* 朝会を進めてくれているプロジェクトチームの2人に質問したところ、見事正解！

そう「脳」です。私たちの「脳」は、五感から送られた情報を使って、考えたり、記憶したり、命令したりします。たくさんの仕事を同時に行うことのできるコンピュータのようなものなのです。



例えば 目の前に指を立ててみてください。

右目だけで見たときと、左目だけで見た時では、指の場所がずれて見えませんか？右目からの情報と左目からの情報は別々に脳に送られますが、このずれを脳で処理して、形や奥行きを判断しているのです。

また、脳は視覚だけ、聴覚だけというように、ひとつの感覚を処理するのではなく、いくつかの感覚を処理して、それらを総合して判断しています。

例えば、美味しそうなお菓子を食べるとき、まず、目で見て（視覚） 手に取り（触覚） 食べます。（味覚） でも、風邪で鼻がつまっているときなど、味がしないように感じることもありますよね。つまり、嗅覚も働いているということになります。

「お菓子を食べる」という単純なことでも、脳は五感をフル活動させているのです。

私たちは「頭がよい」という言葉をよく使います。校長先生も、子供のころから「頭がよくなりたいなあ」と思っていました。頭がよいということは、脳をよく使えるということです。そのためには、この「五感」からの情報がとても大切なのです。「五感」を使って、いろいろな情報を脳に送ること、一つの感覚だけではなく、体のいろいろな感覚を使うことがとても大切なのです。